

日本原子力学会 核燃料部会
平成 27 年度第四回運営小委員会議事録案

日時 : 平成 28 年 2 月 29 日 (月) 13:30~16:10

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : (委員は 50 音順)

湊部会長、山中副部会長、平井副部会長、池田委員、岩元委員、
上田氏 (JNFL 逢坂委員代理)、宇埜委員、尾形委員、
河原氏 (小野岡委員代理)、草ヶ谷委員、高松委員、手島委員、
永瀬委員、野田委員、藤塚委員、伊藤委員候補、巻上 (記)

議事

1. 前回運営小委員会議事録等の確認

巻上庶務幹事から、資料 1 により、前回運営小委員会議事録が提示された。ホームページ掲載済であり、説明は省略した。

2. 委員の交代について

巻上庶務幹事から、資料 2 により、平成 28 年 3 月 27 日の第 43 回全体会議で審議予定の委員交代案について、以下の通り報告された。

(1) 部会長

湊 和生 (日本原子力研究開発機構) 【再任】

(2) 副部会長

山中 伸介 (大阪大学) 【再任】

平井 睦 (NFD) 【退任】 ⇒伊藤 邦博 (ニュークリア・デベロップメント) 【新任】

(3) 運営小委員

伊藤 邦博 (ニュークリア・デベロップメント) 【新任】

小野岡 博明 (関西電力) 【退任】 ⇒河原 伸行 (関西電力) 【新任】

長崎 正雅 (名古屋大学) 【退任】

また、JNFL 上田代理から、JNFL 逢坂委員と交代する見通しであることが報告され、第 43 回全体会議で合わせて審議することとした。

3. 平成 27 年度予算の支出予想と平成 28 年度予算について

巻上庶務幹事から、資料 3 により、平成 27 年度予算の支出予想と平成 28 年度予算が報告された。

4. 平成 28 年度 核燃料部会業務分担について

巻上庶務幹事から、資料 4 により、平成 28 年度の業務分担が報告された。

5. 平成 27 年度 核燃料部会全体会議の準備について

巻上庶務幹事から、資料 5-1~3 により、第 43 回全体会議の準備状況が報告された。運営小委員会で内容確認した後、次の通り準備を進める。

- ・ 資料 5-1 (全体会議資料案) : 運営小委員会で最終確認
- ・ 資料 5-2 (全体会議の案内) : 部会員に発信
- ・ 資料 5-3 (規約・内規の改定案) : 部会ホームページに掲載

6. 第 4 回核燃料部会賞 (奨励賞) の選考結果について

池田国内企画幹事から、資料 6 により、第 4 回核燃料部会賞選考小委員会による部会賞 (奨励賞) 受賞候補者の選考結果について説明を受け、運営小委員会として、

牟田浩明氏 (大阪大学)

「トリウム酸化物燃料の作製と物性評価」

篠原靖周氏 (ニュークリア・デベロップメント)

「水素イオン照射下におけるジルコイ中の水素化物成長の TEM 内その場観察」

三輪周平氏 (日本原子力研究開発機構)

「アメリカシウム含有イナートマトリックス燃料の焼結挙動の解明」

の 3 名 (応募順) を、受賞者として選考した。

また、今後の選考に関して議論を行い、若手の励みとなる機会を設けるべき、部会賞 (奨励賞) の選考基準の緩和には慎重であるべき、などの意見が出された。若手の奨励に関しては、夏期セミナーにおけるポスターセッションの表彰など、柔軟に機会を設けていく意義が確認された。

7. 平成 28 年度 夏期セミナーの準備状況について

手島委員から、資料 7 により、平成 28 年度 夏期セミナーの準備状況が報告された。また、今後の夏期セミナーに関連する課題として、大学ごとに開催に適した時期が異なっていること、クォーター制の導入までには期間があることなどを踏まえ、山中副部長から、原子力を目指す人材も減少傾向にある中、学生に核燃料分野を紹介するセミナーなどの機会を、冬から春に設けることが有意義ではないかと提案があり、検討を進めていくこととなった。

8. 核燃料部会報の進捗状況について

高松委員から、資料 8 により、核燃料部会報 (No. 51-2) の調整状況が報告され、平成 28 年 5~6 月の発行に向けて、準備を進めていくことが確認された。

9. ポジションステートメントについて

尾形委員から、資料 9 により、ポジションステートメントの検討状況が報告された。資料 9「燃料デブリについて」は、これまで、運営小委員会と企画小委員会で検討を進めてきており、改めて運営小委員会でレビューを行った後、学会のポジションステートメントとして提案すると共に、核燃料部会ホームページにも掲載する方針とした。また、核燃料部会ホームページについて、福島第一に関連する知見をまとめて示すような構成とすることが部会長から提案され、検討を進めていくこととなった。

10. 燃料デブリ研究専門委員会の設立について

永瀬委員から、資料 10 により、燃料デブリ研究専門委員会の設立準備の状況が報告された。現在、他の部会や関係機関に対して、委員としての参加を呼び掛けているところであり、学会理事会の承認を得て設立に至るのは、早ければ本年 5~6 月の見通しである。

11. 企画小委員会と運営小委員会の連携について

企画小委員会と運営小委員会の連携について議論を行い、次のような意見が聞かれた。次回以降も、より良いあり方に向けた議論を継続していく。

- ・ 現在の内規は、企画小委員会の柔軟な活動を認める内容となっている
- ・ 企画小委員会は、事務的な検討に縛られるより、若手の意見を吸い上げて技術的な議論を行い、運営小委員会に提案を出して貰えると良い
- ・ 企画小委員会から技術的な提案を示してもらうことで、運営小委員会でも技術的な議論が活性化する
- ・ 企画セッションのテーマに関しても、直近の具体的なテーマに限定せず、中長期的な課題を幅広く議論、提案できると良いのでは
- ・ 「企画」の検討を活性化する方法としては、NEA のように、運営小委員会から具体的なタスクを呈示するような方法も考えられる
- ・ 企画小委員会に望まれる姿に合わせて、体制を考えることも有効

12. その他

(1) 軽水炉燃料等の安全高度化ロードマップ検討WGの活動状況について
巻上庶務幹事から、資料12により、12/9に開催した第3回会合、2/17
に開催した第4回会合の状況が報告された。

(2) 次回予定

次回(平成28年度第一回)運営小委員会は、平成28年5月20日(金)の
午後、日本原子力学会事務局会議室で開催する予定とした。

(⇒平成28年5月23日(月)の午後に変更)

13. 結言

学生を含めた若手に元気を出して貰えるよう、核燃料分野を盛り上げて
いくことが必要であり、若手に対する励みとなる部会賞などの取り組みを、
今後も継続、発展させていくことが重要である旨、部会長から示された。

以上